

2019年度（令和1年度） 通常総会懇親パーティー二ノ宮新会長ご挨拶

（2019年6月21日（金） 於東海大学校友会館）

一般社団法人日本産業車両協会

ただいまご紹介いただきましたように、さきほど終了しました総会後の理事会で、新たに会長に選任されました、三菱ロジスネクストの二ノ宮です。

このたび、はからずも会長という重責を担っていくこととなりましたので、一言ご挨拶申し上げます。

まずは、本日は誠にお忙しい中、多くの方にご出席いただき有難うございます。また、会員、関係団体の皆様にも多数ご出席いただき誠に有難うございます。

そして、大西前会長におかれましては、2年間大変有難うございました。 会員を代表して、あらためて厚く御礼申し上げます。

さて5月に改元となり、令和という新しい年を迎えましたが、ここで平成という30年間の歴史を簡単に数字で振り返ってみたいと思います。

まず日本の実質GDP額ですが、平成元年度は387兆円で、平成30年度は534兆円と見込まれますので、およそ1.4倍の成長を遂げたことになります。

私ども産業車両の国内生産額は、平成元年度の5,393億円から、平成30年度は3,600億円と、統計上では大きく減少しています。

しかし、ここには理由があり、産業車両の主力機種であるフォークリフトの海外での生産へのシフトが進んだことによる減少です。海外生産も含めて、日本のフォークリフトメーカーが世界中で販売した台数を見ると、平成30年度は平成元年度に比べて1.5倍近くに増加しました。これはGDPの成長とほぼ同じ伸びであります。

そして海外での販売が販売全体に占める割合は、平成元年度の44%から、平成30年度は65%へと上昇し、国内での販売を上回るまでになっています。

それだけ業界のグローバル化が進んだと言えますし、世界中で日本のフォークリフトが受け入れられているということでもあります。

また無人搬送車システムでは、近年話題になることが増えておりますが、平成元年暦年には548システムが納入されましたが、平成30年の納入件数は2倍近い1,029システムとなりました。

もう一つ統計を紹介しますと、日本の総人口は平成元年度は1億23百万人で、平成30年度は1億26百万人とあまり変わっていませんが、いわゆる生産年齢人口だけで見ると、8,575万人から7,545万人へと12%も減少しています。

2060年の推計人口は全体で8,700万人に減ると見込まれておりますので、労働力不足は今後ますます厳しくなってくると思われれます。

こうした30年の変化の後で迎えた、令和という新しい時代ですが、協会としては、引き続き“物流の効率化”、“安全の向上”、“環境負荷の低減”の三つテーマを中心に活動してまいります。

“物流の効率化”につきましては、先ほど申し上げたように、物流現場の人手不足の問題が待ったなしの状況で、自動化等のニーズも大変強くなっております。現在、無人搬送車システム導入ガイドブックを作成しておりますので、お客様が導入を検討される際の参考にさせていただきたいと思っております。

また、この秋には、私どもも審議に参加してきた無人搬送車システムの国際安全規格の最終案が完成する見通しです。日本でもこの新たな規格に対応した国内JIS規格の改正を進めてまいり予定ですので、こうした活動を通じて、国内での物流の自動化の発展・拡大に貢献

してまいります。

そして、来年2月には「国際物流総合展 INNOVATION EXPO」を開催いたしますので、ぜひご期待下さい。

次に、“安全の向上”に関しましては、来年7月に「フォークリフト安全の日」を開催すべく準備を進めております。厚生労働省からは大変よいアイデアだご評価をいただき、ご後援いただく予定です。物流現場での人材確保のためには、安全が確保されていることが重要ですので、製品の安全機能の紹介や安全な現場の作り方、作業における留意点等、広くご紹介していきたいと考えております。

また“環境負荷の低減”では、電気式フォークリフトや燃料電池式フォークリフトのいっそうの普及促進に努めてまいります。持続可能な開発目標（SDGs）が大きな潮流となっておりますが、工場での省エネの推進、そして環境に優しい製品の開発といった取り組みを続けていきたいと考えます。

またグローバル化という観点からは、毎年欧米中の協会と協力して開催しておりますアライアンス業界首脳会議が、22回目を迎えて今年は9月にアメリカのサンディエゴで開催されます。

昨年のベルギーでの会議でも、アメリカの中国からの輸入への関税引き上げや、Brexitの先行き等について議論しましたが、自由貿易の堅持という業界の姿勢をもう一度確認したいと思います。

以上、過去30年間の変化と、協会、業界が取り組む課題について申し上げます。

協会としましては、会員の皆様と共に、産業車両の自動化やI o Tの技術との融合も進めながら、新たな価値を創出し、それによって日本の物流の課題解決、そして高度化に寄与してまいりたいと思いますので、関係諸官庁や内外の関係団体からのご支援ご協力をぜひともよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、産業車両業界の益々の発展と、本日お越しいただきました皆様のご健勝を祈念いたしまして、新会長就任に当たってのご挨拶とさせていただきます。